

既履修学習者との協働による MOOC 講座運用の効率化

古川 雅子[†] 山地 一禎[†]

[†] 国立情報学研究所 〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

E-mail: [†] {furukawa, yamaji}@nii.ac.jp

あらまし 国立情報学研究所では, JMOOC においてプログラミング入門講座「はじめての P」を開講している. 再開講では, 履修済みの学習者にディスカッションボードサポータを依頼した. 本稿では, ディスカッションボードサポータとして既履修ボランティアを導入した取り組み及びその効果について分析を行ったので報告する.

キーワード MOOC ディスカッション サポータ

Eco-operation framework of MOOC course with previously certificated learners

Masako Furukawa[†] Kazutsuna Yamaji[†]

[†] National Institute of Informatics 2-1-2 Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-8430 Japan

E-mail: [†] {furukawa, yamaji}@nii.ac.jp

Abstract National Institute of Informatics had provided a programming introduction course "Hajimete no P" in JMOOC. In the reopening course, we asked some students who had already acquired the certificate as the discussion board supporter. In this paper, we report on the efforts the discussion board supporters and its effectiveness.

Keywords MOOC, discussion supporter

1. はじめに

教育の情報化が加速するなかで, 社会全体に大学レベルの教育機会を提供できるとして世界的に普及している教育システムのひとつに MOOC (Massive Open Online Courses: 大規模公開オンライン講座) がある. MOOC は 2012 年にアメリカで普及が進み, 2013 年には日本国内においても大学レベルの講義をオンラインで無償公開するプラットフォームの国内での運営・活用を推進する協議会として JMOOC が設立された[1].

提供される教材はデジタルコンテンツであるため, 再開講も容易である.

一方で, MOOC における「無料」とは学習者が支払わないという意味であるため, MOOC においては提供側のコストが一つの課題といえる.

コストは大きく 2 つの種類に分けられる. 一つは初期段階におけるコンテンツ制作に関わる費用であり, もう一つは運用に関わる費用である. これらは主に大学等のコンテンツ提供側が負担している.

再開講においては, 初回のコンテンツ制作費用はかからないが, 運用に関わる費用がかかる. MOOC において継続的に「無料」であることを可能にするためには運用コストの改善に取り組む必要がある.

国立情報学研究所では, JMOOC の講座提供プラッ

トフォームのひとつである gacco において, プログラミング入門講座「はじめての P」[2]の再開講を行い, ディスカッションボードのサポータとして初回時の修了者に協力を募り, ディスカッションボードにおける受講者支援を行った.

本稿では, 「はじめての P」の再開講において導入したディスカッションサポータの試みについて報告するとともに, アンケート結果からサポータ自身の効果について考察し, 今後の課題について検討する.

2. 概要

2.1. ディスカッションボードサポータの募集

初回開講時の修了条件を満たして認定書を発行した学習者全員を対象に, 以下の条件でディスカッションボードサポータの募集を行い, 途中離脱を考慮し先着順で 12 名のサポータに協力を依頼した.

1. ディスカッションのサポート (週に数回程度×4 週)
2. 投稿内容の確認および投稿の質問・議論に対するサポート投稿

応募時に応募理由について尋ねたところ, 「前回受講してとても良いクラスだったので, その恩返しとして次の人へのサポートができれば」や「この講座以外

にも JMOOC の講座を受講しております。無料ですので、なんらかの貢献ができればいいなと常日ごろ思っております。今回は、サポータという形で恩返しができるば」など、ディスカッションボードのサポータの必要性を述べるとともに何らかのかたちで恩返しをしたいという回答がみられた。また、サポータのプログラミングとの関わりについて尋ねたところ、プログラミングの専門家以外には、初回修了後にプログラミング入門書や入門サイトで勉強している回答が多くみられた。

2.2. ディスカッションボードにおける学習支援

図 1 にサポータごとの総コメント数を示す。初回挨拶の書き込みを含めコメント数は平均 21 件だった。3 名のサポータの書き込み回数が特に多かった。なお、サポータ c は別のユーザ ID を使用しており正確に確認できなかったため 0 件とした。

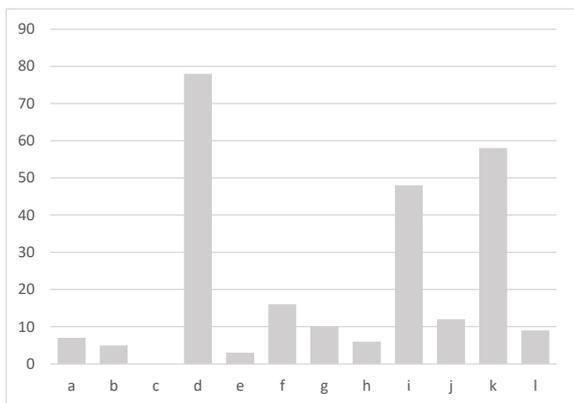


図 1 総コメント数

3. アンケート結果

4 週間の期間終了後アンケートへの回答を依頼した。

図 2 にサポータ業務のやりがいに関する回答結果を示す。自由記述には、「先に勉強し始めただけが、自分の知識が初心者役に立っていると感じられた」や「受講者の学習の手助けをする役割を与えてもらった」等の貢献感を述べた回答がみられた。

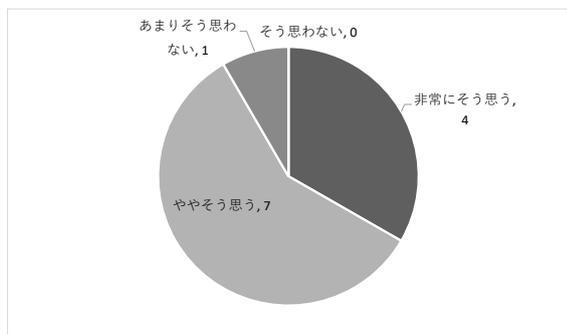


図 2 サポータ業務にやりがいを感じましたか

立ったかに関する回答結果を示す。自由記述には、「なるべく正しい情報を…という意識になるため、自分なりにもう一度復習したり講義を見直したりすることで自分自身の知識を深めるきっかけにもなった」や「他人に対して回答する術を学ぶことができた。他のサポータの回答を見ることで役に立った。」等の回答がみられた。

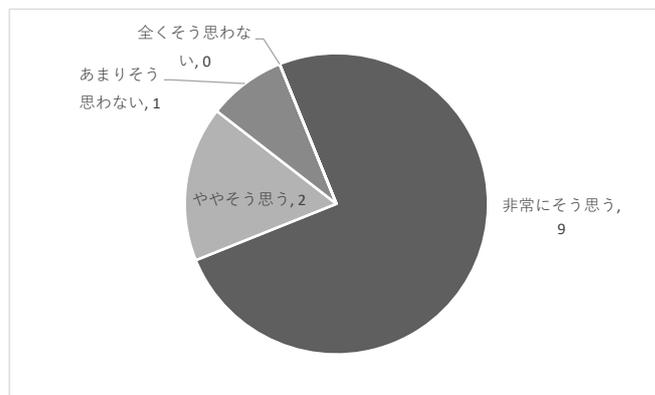


図 3 サポータ経験はご自身の役にも立ちましたか

4. まとめ

本稿では、「はじめての P」の再開講において導入したディスカッションサポータの試みについて報告するとともに、アンケート結果からサポータ自身にも貢献感や満足感などがみられ、ディスカッションサポータ導入がサポータ自身にも役に立つ可能性が示唆された。今後は、サポータの選定方法や、効果的なガイダンスについて検討していきたい。

文 献

- [1] 福原美三, 日本初 MOOC の可能性と課題, 研究報告教育学習支援情報システム (CLE), 2014-CLE-12(1), 1-1, 2014.
- [2] 古川雅子, 岡本裕子, 吉岡信和, 山地一禎, JMOOC おけるプログラミング入門講座の設計及び実施, 大学 ICT 推進協議会 2016 年度年次大会論文集, 2016

また, 図 3 にサポータ経験がサポータ自身の役にも